

Darnell, Regna (2009)

**Cross-cultural constructions of work, leisure and community responsibility: some First Nations reflections**

Volume 16, Issue 1, Page 4-9

仕事, レジャー, 社会的責任についての異文化間解釈: カナダ先住民からの考察

本論は、定住農耕民と資源を求めて移動する先住民との根源的な相違をとおして、カナダ社会における先住民と非先住民との間に生じる習慣的なミスコミュニケーション（誤解）について考察する。ここではカナダ先住民の「遊牧遺産」すなわち遊牧によって今日まで受け継がれてきた仕事、教育、社会保障や医療サービスを得る方法について論じる。すでに多くのカナダ先住民は保留地に住んでいないが、先住民のアイデンティティーは、一時もしくは永続的に帰ることができる故郷（homeplace）としての保留地と密接に関連している。場所と共同体を基盤とする現代のカナダ先住民のアイデンティティーは、仕事とレジャー、地域社会と環境の関係というような概念とは、馴染みのないものを含み持つ。本論では異文化間の不和を解消するいくつかの方法を提案し、それらの方法が先住民の伝統を尊重することと矛盾しないことを示す。（訳：青山 真美）

Key words: Cross-cultural communication（異文化コミュニケーション）、First Nation（カナダ先住民）、Nomadic legacies（遊牧遺産）、Work and leisure（仕事とレジャー）、Language and environment（言語と環境）

Translated by Mami Aoyama, PhD, OTR/L

Division of Occupational Therapy

Department of Rehabilitation Sciences

Nishi Kyushu University

Fiddler, Alvin & Peerla, David (2009)

**The Kitchenuhmaykoosib Inninuwug and the Struggle for the Right to Say No**

Volume 16, Issue 1, Page 10-11

Kitchenuhmaykoosib Inninuwug とノーと言う権利への難しさ

作業的公正の視点は、人が、「発育し、成長し、自らが備え持つ可能性に至るために、作業に参加することを必要とし、要求する (Townsend & Wilcock, 2004, p. 262)」ことを示唆している。作業的公正は、人が社会の中で作業従事を選択し、コントロールする力量・資源・機会・権利を持った時に、存在する。しかし、「社会的な構造や、社会的に形成された条件」という言葉で、多くの人異なる形で作業的不公正を経験している (p. 251)。本論文に例示する作業的不公平の経験は、カナダのサンダーベイで行われた第4回 CSOS シンポジウムの基調講演で Alvin Fidler が述べたことに基づくものであり、自分で選んだ作業に従事する権利を体系的に剥奪されることを示している。Fidler は基調講演で、Regna Darnell が以前基調講演で論じた文化的な誤解 (miscommunication) という概念を用いて、この文化的誤解によって生じうる事項を明確に表した。Fidler は、Kitchenuhmaykoosib Inninuwug\*は、最近の採鉱ブームに現れるような脅迫に抵抗し戦うために、自分たちの伝統的行為というよりは、土地やアイデンティティといったものに注意を向けざるを得ない状況にあると述べた。作業の喪失は、個人やコミュニティのアイデンティティの感覚、伝統的作業の形や意味を未来の世代に伝達する能力、そしてその集団の文化を脅かす。そもそも問題は、先住民族と政府の総合理解の基盤が、歴史的に異なることから生じている。Kitchenuhmaykoosib Inninuwug は、自己決定の権利、いわば、どの作業がどの場所で行われるべきであるかを定める権利が奪われているのである。これらの権利とは、先住民族ではないほとんどの人にとっては、当然のものとして存在している。Kitchenuhmaykoosib Inninuwug の苦闘は、最近の作業的不公正の例を、公的に表すものではあるが、彼らがカナダやそれ以外の地域で当たり前のように作業的不公正の対象になっている人々の中のほんの一例にすぎないことも、認識する必要がある。(訳：近藤知子)

\*訳者註：Kitchenuhmaykoosib inninuwug は、カナダに住む先住民族。

Key words: Cross-cultural communication (異文化コミュニケーション), Nomadic legacies (遊牧民の遺産), First Nations (先住民国家), Work and Leisure (仕事と余暇), Language and environment (言語と環境)

Translated by Tomoko Kondo, PhD, OTR/L

Department of Occupational Therapy

Teikyo University of Science & Technology

Shaw, Lynn Southcott, Chris & Townsend, Elizabeth (2009)

**A Community Panel on Occupations to Consider Economic Opportunities Outside Major Urban Centres: Occupations in Thunder Bay, Canada.**

Volume 16, Issue 1, Page 12-17

主要都市近郊の経済機会を考慮するための作業に関するコミュニティパネル：カナダ，サンダーベイにおける作業

第4回カナダ作業科学シンポジウムには新しい特色が盛り込まれた—主要都市近郊の経済的な作業機会に関するパネルである。参加者と地元のコミュニティを結びつけるパネルでは、北オンタリオの雇用の移行に関する作業と場所という幅広い概念についての意見交換が行われた。意見交換に先立ち、北オンタリオにおける作業パターン、及び、何を作業とみなすかについての講演が行われた。その後小グループに分かれ、日常や週間の作業、経済発展の可能性、経済的な作業移行に対する最近のアプローチ、地区における作業移行を検討するための可能な調査領域と協力者について考察した。本論文では、この行事と2つの講演、主要な論点について要約した。また最後に、作業科学シンポジウムでコミュニティを巻き込むことの利点と、パネルに地域社会を巻き込むことの推奨について論じた。  
(訳：村井真由美)

Key words: Community development (コミュニティ開発), Commodification (商品化), Economics (経済), Occupational classification (作業的分類), Occupational transition (作業移行)

Translated by Mayumi Murai, PhD, OTR/L

Department of Rehabilitation

Nursing Home Ai to Yui no Machi

Laliberte Rudman, Debbie Huot, Suzanne & Dennhardt, Silke (2009) ,  
**Shaping ideal places for retirement: Occupational possibilities within contemporary media.**  
Volume 16 Issue 1, Page 18-24

退職者にとって理想的な場所を形作る—現代メディアの中にある作業の可能性—

本論文は、退職生活に備えている人と、既に退職生活を送っている人の理想的な住宅の選択にふれた 82 個の新聞記事に対し、批判的ディスコース分析を行ったものである。分析は、退職者の理想的な場所に関連する重要な側面を明らかにし、本文中で言い表された作業の可能性について批判的に検討するものである。分析した記事は、退職を目前にした人と早期退職者は、先を見越した住宅消費者になるということを通して、活発で若々しく常に新しくいようとしていることを表していた。理想的な場所とは、高齢者が、年齢・社会的階級・興味関心が似通った人たちと暮らせる場所であったが、理想的な作業は食べること飲むこと・身体を動かす余暇活動・教養活動を含んでいた。退職者の理想的な場所に関する記事の社会的・政治的示唆に触れた研究に基づき、このような場所を消費できる高齢者と、その援助から締め出された高齢者両者の作業的な意味が考察された。(訳：崎山 美和)

**Keywords:** Housing (住宅), aging (加齢), Identity (アイデンティティ), Occupational justice (作業的公平), Governmentality (政治性)

Translated by Miwa Sakiyama, OTR/L, MSc  
Rihabiri-Kikaku L.L.C.

Crooks, Valorie Dale Stone, Sharon & Owen, Michelle (2009)

**Multiple Sclerosis and Academic Work: Socio-spatial Strategies Adopted to Maintain Employment**

Volume 16, Issue 1, Page 25-31

多発性硬化症と学者の仕事：雇用を維持するために用いられる社会-空間的戦略

多発性硬化症の発症の後に、報酬を伴う仕事とその中に含まれている作業的アイデンティティ（同一性）を維持することは重要であり、有益である。過去の研究は、高度の教育を受け、作業的名声の高い地位にいる多発性硬化症の被雇用者は、職務遂行の場に留まりやすいことを一貫して示している。私たちは、このような雇用結果を招くような職場の特殊性とは何かについて問う。この質問へ答えるために、私たちは、10回の半構成的インタビューをカナダ人の多発性硬化症をもつ大学教員に行う探究的なパイロットスタディーを実施した。インタビューの応答者にとっては、通うこと、空間的-時間的日課、そして社会的ネットワークに関連する社会-空間的な戦術の採用が、大学の職場における場所を維持するために重要なことであった。融通性、資源へのアクセス、そして症状の変動といった要因が、これらの戦術を可能にしていた。本研究における発見は、場所と作業の関係が、身体的、社会的空間、そして役割が特別な作業的な自分らしさの維持につながっているなど、多様で複雑であることを示していた。（訳：港 美雪）

Key words: Multiple sclerosis (多発性硬化症), University (大学), Employment (雇用), Place (場所), Occupation (作業)

Translated by Miyuki Minato, PhD, OTR/L

Department of Occupational Therapy

Kibi International University

Peralta-Catipon, Terry (2009)

**Statue Square as a Liminal Sphere : Transforming Space and Place in Migrant Adaptation**

Volume 16, Issue 1, Page 32-37

境界圏域としての皇后像広場：移住労働者の適応における空間と場所の変容

本論文は、移住者の適応において空間と作業がいかに重要な要素になりうるかを実証する。香港で働くフィリピン人の移住家事労働者達は、移動、パーソナルスペースの不足、場違いの感覚に関連した多様なストレスに直面している。毎週日曜日、1万人の移住労働者が香港の中心地区にある皇后像広場に集まる。筆者は、エスノグラフィーの手法を用いて、フィリピン人労働者にとって毎週集まることの重要性について探求した。本論文では、情報提供者が経験を分かち合い、意味を分かち合い、アイデンティティを分かち合う場としての広場で、特定の空間をどのように繰り返し使用しているかを示しながら、労働者の適応過程における空間と場所の役割に焦点をあてた研究知見を提示する。結果として、皇后像広場は、避難所、一時的な社会、第2の故郷に変容している。この論文では、境界 (liminality) と共同体 (communitas) の概念を使って、移動、無力化、差別によって引き起こされる困難を和らげる多様な経験の変容を可能にする境界圏域として皇后像広場を定義する。(訳：坂上 真理)

Key words: Filipina domestic workers(フィリピン人の移住家事労働者), Place(場所), Migrant adaptation (移住者適応), Liminality (境界), Communitas (共同体)

Translated by Mari Sakaue, PhD, OTR/L

Department of Occupational Therapy

Sapporo Medical University

Fok, Daniel Miller Polgar, Janice Shaw, Lynn Luke, Robert & Manduch, Angela (2009)

**Cyberspace, Real place: Thoughts on Doing in Contemporary Occupations**

Volume 16, Issue 1, Page 38-43

サイバースペース，現実の空間：現代の作業を行うことに関する考察

今日の社会において，仮想現実空間 (cyberspace) サイバースペースと現実の空間 (real space) という区別は，誤った2元化であるといえる．ワイヤレスのノート型パソコン，電子機器や次々と作られる情報通信技術 (ICT) 関連品，そしてこれらから提供される仮想現実空間/インターネットの情報は，我々が現実の場所で「する」ことの形ややり方に介入しているかもしれない．この現象は欧米化社会における現代の多くの作業において見られ，作業，場所，そしてインターネットとの間のつながりを強めている．本論文では，そのつながりについて，まずホッピングの人-対象交流モデル等を用いて検証する．さらに，このモデルに情報という領域を加えることで，インターネットの情報を届ける媒体としてのICT関連品の応用について考える．例として，ICT関連品やそれによって様々な場所へと届けられる情報を導入することの複雑性と，作業科学者がこれらを考慮することが，いかに現代の多くの作業のより広い理解につながるかについて述べる．(訳 浅羽 明恵)

Key words : Cyberspace (仮想現実空間) , Information (情報) , Internet (インターネット) , Object (対象物) , Place (場所)

Translated by Akie Asaba, MH Sc, OTR/L

Lynch, Helen (2009)

**Patterns of activity of Irish children aged five to eight years: city living in Ireland today**

Volume 16, Issue 1, Page 44-49

アイルランドの5～8歳の子どもたちの活動のパターン：アイルランド都市生活の今日

子どもの作業に関する研究は、作業科学文献において、一層注目を集めつつある。この傾向は、子供の健康と幸福（Well-being）に関する世界的な関心と一致している。自然な環境における子どもの活動パターンの研究は、子どもの参加・健康・作業の発達に関連する高度な知識を提示する。本研究は、時間使用法（time-use methods）を使用して、2007年に5～8歳になるアイルランドの子どもたちの活動や環境を、探索し明らかにしたものである。調査結果は、作業の発達を踏まえる場合、環境上の文脈を考慮する必要があることを支持するものであった。子ども、環境、作業の関係性を検証するには、時間使用法を用いた更なる研究が必要である。（訳：西方 浩一）

**Key Words:** Occupational development（作業の発達）, Person-environment-occupation（人—環境—作業）, Children（子ども）, Time-use（時間使用）

Translated by Hirokazu Nishikata, MS, OTR/L

Department of Occupational Therapy

Faculty of Health Science Technology

Bunkyo Gakuin University

Townsend, Elizabeth Dale Stone, Sharon Angelucci, Tanya Howey, Melissa  
Johnston, Dawn & Lawlor, Sharon (2009)

### **Linking occupation and place in community health**

Volume 16, Issue 1, Page 50-55

地域保健 (Community Health) における作業と場所 (place) のつながり

作業と健康の関連については、過去にある程度は研究されてきたが、作業と場所 (place) のつながりにはあまり注意が払われて来なかった。この論文は作業と環境の関連について検討するものである。仕事 (work) に限定せず、全ての作業において社会的参加を促進するために、人が行うことや人が特定の場所で行うことに影響を与える社会的決定因子に対処できるような、公的で財政的支援を伴う保健サービス (Health services) の組織化を地域社会は必要としているというのが我々の論点である。本論文の主張は、健康のためのキーとなる社会的決定因子に問題がある時、社会的周縁化 (marginalizing) が社会的参加の状態に影響することを示す4つのエピソードをもとに展開している。この四つのエピソードにおける社会的決定因子の問題とは、交通手段がないこと、減量や運動プログラムは高価すぎて手が届かないこと、雇用支援がわずかであること、不十分な低所得者向け住居しかないことである。(訳：渡辺 明日香)

**Key words:** Community health (地域保健), International Classification of Functioning, Disability and Health (ICF) (国際生活機能分類), Marginalized people (社会的に周縁化された人々), Social determinants of health (健康の社会的決定因子), Social inclusion (社会的包含)

Translated by Asuka Watanabe, Ph.D., OTR/L  
Department of Occupational Therapy  
Faculty of Human Sciences  
Hokkaido Bunkyo University

Shaw, Lynn (2009)

**Reflections on the importance of place to the participation of women in new occupations**

Volume 16, Issue 1, Page 56-60

女性の新しい作業参加に関わる場所の重要性についての考察

本稿は、海辺の小屋作りという経験についての個人的な考察であり、女性が新しい作業に参加するときの促進要素と制限要素を探ることと、そのときの場所と作業との関連を理解することを目的としたものである。省察の結果得られた知識は、新しい、習慣になっていない作業に参加するにあたり、毎日の日課から離れて新しい場所に存在することや、開放感と安心感があるという要素が、触媒となることを示唆していた。場所には、新しいスキルを実行し、能力の開発を可能にする資源がある。場所から生まれた価値が、意味のある、現在進行中の参加へのさらなる促進を可能にする。今後は、作業に参加する女性たちがスキルを学習し、多様な作業の要求に応え、自信を獲得するために、場所と状況がどのように触媒として作用するか理解するために、もっと多様なセッティングでリサーチする必要がある（訳：小田原 悦子）。

**Key Words:** Novel occupations（新しい作業）、Unconventional occupations（非習慣的作業）、Women（女性）、Place（場所）、Participation（参加）

1.

Translated by Etsuko Odawara, Ph.D., OTR/L

Division of Occupational Therapy, School of Rehabilitation Science

Seirei Christopher University